

繰り言

森本 眞智子

私の小さな庭にも

椿 幾種類かの水仙の終わった後も

フリージャ ガーベラ つつじ バラ 都忘れ

そして 一株だけのボタンと咲き継いできた

何があるうと花は咲き継ぎ

緑は膨らみ

春は 高みへと駆け上がってきたのだ

こんな 小粋な季節に コロナはまだ居座って

世界中を震撼させている

新聞から テレビから ラジオからお前の名を聞かない日はない

ゴールデンウィーク明けの日曜日

「全国で七二〇〇人がコロナに感染」の文字が新聞紙上に躍った
哀しいのは

この国が先進国を自負しながら

ワクチンひとつ作らなかつたことだ

重症化する若い世代が増えているという

お前のおかげで 人々の暮らしや心がずたずただ

だが お前よりも もっと残酷な人間もいる

ミヤンマー ロヒンギャの民は 行き場をなくしておののいている

どれだけ多くの民が兵達に蹂躪されてきたことだろう

兵は民を守るためのものではなかつたか

母の胸に抱かれた幼な子が

一発の銃に撃たれて即死

あの子の一生が あの一瞬で終わってしまったのだ

そのことを 兵よ わかっているのか

街角で住民が容赦なく殴られ 撃ち殺される

血の染み付いた路面が痛々しい

まだある 差別だ

人々は差別をするのが好きだ
その狭い心で 人を傷つける
コロナ感染者への 誹謗中傷
無くならない人種差別

欧米では、今 アジア人が狙われているという
黄色い肌が なにをしたというのか
差別をし 傷つけ 痛めつけることで
自分が優位にたてるとでも 思っているのだろうか
みすぼらしい 錯覚でしかないものを

次々に起こる こんな不条理を嘆いて
どうにもならない世の中を嘆いて
海辺の船溜まりでは
今夜も 波の爺さまの
ブツブツと ぐちゅぐちゅと
岸壁をたたきながらの繰り言が
続いているのだろう

「塩野義より国産ワクチンが開発され
年内完成か、とのニュース流れる。」

5月10日」